

サクッとわかる国語 基本知識

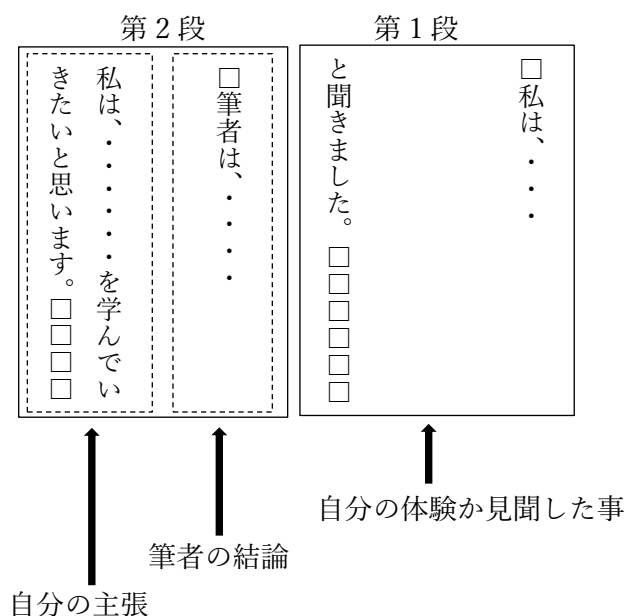
都立高入試 200字作文対策(平成29年過去問を例として)

KIPアカデミー

2023年1月27日

(平成 29 年度の問題を例として)200 字作文について

- ① 自分の体験などを書く段落と、筆者の結論を引用しつつ自分の主張を書く段落の 2 段構成にする(定石)。
- ② 自分の主張は「私も・・・の伝統を守っていきたいと思います。」とか、「自分も・・・ A と B の関係について学んでいきたいと思います。」というように素直な中学生になったつもりで書く?!
- ③ 2 段目の最初に、筆者の結論をもってくる(定石)。
つまり筆者の結論は本文の最後「食生活史の研究は、それぞれの国の歴史的特質を明らかにしうる可能性を秘めている」の所。これだけで約 40 字が埋まる。
- ④ 「食生活と歴史」というテーマは大抵の中学生にはなじみがないため、何を書けばよいのか悩みますよね。そこで、まずは自分に身近な体験を思い浮かべて、それを歴史や伝統と関係づけてみるとよいです。



自分で考えて作文する箇所は第1段の「自分の体験や見聞した事」だけ。後は定石通りのパターンを書けば済んでしまう。

⑤ 例を2つほど示します。

例 1)

1. 私の家の近所にはラーメン屋さんが沢山あります。単身世帯や共働き世帯の増加で、短時間で作って食べられるラーメンが好まれるようになったからだと母から聞きました。
2. 筆者は食生活史の研究は、その国の歴史的特質を明らかにしうる可能性を秘めていると主張していますが、私も日常食べている食事の歴史的な背景などに興味を持って、食生活と歴史について学んでいきたいと思っています。

例 2)

1. 私はアイスが好きです。夏になると毎日のように食べますが、最近は冬でもよく食べます。温暖化や暖房器具が広がったため、冬でも家の中が温かくなったからだと思います。
2. 筆者は食生活史の研究は、その国の歴史的特質を明らかにしうる可能性を秘めていると主張していますが、私も日常食べている食事の歴史的な背景などに興味を持って、食生活と歴史について学んでいきたいと思っています。

- ✓ 前段と後段それぞれ半分(100字)にする必要はない。前段が長くなったら、後段は短めにして調整する(最後の行までたどり着こう)。
- ✓ 200字は意外と短い。多くの事を書く必要はない(文は2~4つ)。
- ✓ 一つの文は短くてよい。
- ✓ 自信のない漢字は書かない。
- ✓ 自分のことは「私は」、文の終わりは「です。」「ます。」で統一する。
- ✓ 都教育委員会の解答例では、おせち料理のことが書かれている。古い伝統を子どもに教えるという学習指導要領の指針が示されているという背景があるからです。しかし、おせち料理などの食文化の伝統に関する知識がないと、書くネタがないので、自分が書きやすいネタ(ラーメンとかアイスなどの自分の身近な食生活)で書いてよいです。